ASSOCIATION OF INTERNATIONAL BUSINESS ADVISERS（愛称：AIBA）

AIBAだより

第59号　2011年1月発行

一般社団法人 貿易アドバイザー協会
http://www.trade-advisers.com/
発 行 人：網谷　昭寛　Tel: 03−3255−2477
編 集 人：釜堀　孝雄　Tel: 04−7122−5956
編 集 者：川村　慎吾　Tel: 045−824−7262

中小企業人材育成支援策に最大限の協力をします

理事長（代表理事）網谷　昭寛

AIBA会員並びにAIBA関係機関の皆様のご健勝ご発展を祈念し、併せて私たちが置かれている経済環境とAIBAの対応につき年頭の所感を申し上げます。

（強力な景気振興策と円高回避を）

(1) 3年前米国サブプライムローン破綻に起因した金融危機は突如世界に同時不況をもたらしましたが、主要各国では市場原理主義の修正、思い切り多額の財政支援、その結果として自国通貨価値低下と輸出増大等が効果を発揮して、昨年の欧米・アジア各国の景気は回復基調にあります。然るに、わが国ではこうした対策に同調せず財政再建に拘り過ぎて大巾財政出動が実施されず、その結果として大巾な円独歩高をもたらし、本来わが国の至上命題である輸出と外国人投資をも行詰らせ国内景気を一層悪化させる結果となっています（政権交代による政策変更も期待されたが逆に増税策が表面化し円高を加速したのは残念という外ありません）。

(2) グローバル企業として有利な海外へ自由に進出して収益を追及できる大企業とは異なり、国内経済と雇用の担い手として圧倒的多数を占める中小企業とその勤労者の事業と生活を安定させ将来の不安を払拭することは政府の責務であり、この方面にこそ思い切った財政投入を望みたい。その成果はGDP構成比の過半を占める個人消費にも好影響を及ぼし、景気回復への波及効果は大きいはずです。

(3) 当協会（AIBA）は旧来のジェトロ関係事業だけでなく、中小企業庁関連海外人材育成事業受注者や厚生労働省助成事業受注者への会員貿易実務講師やオンライン貿易相談員の派遣を実施していますが、中小企業の人材育成を図るため政府予算でこうした事業をもっともっと拡大して頂きたいと希望します。

経済産業省でも昨年辺りから電子商取引（B2B／B2C）による輸出促進にとり組み全国的セミナーを展開されましたが、これにもAIBAは専門家講師派遣で協力しました。今後もっと大規模な普及活動支援予算を組んで頂きたいものです。

わが国は嘗てのように経済大国などと高ぶっておれる時代ではなくなり、限られた資源・資金・知力・労力を有効活用する以外に列国に対抗できないのです。私たち貿易アドバイザーは、このうち、わが国中小企業がグローバル経済化の中で選ぶべき道をアドバイスできる知力の提供者として重要な使命を帯びているのです。

（日本はドイツ型経済構造を目指そう）

(4) 貿易自由化の進展とともに経済的にはTPP等への加入で、好むと好まざるに拘わらず外国との生産分業化は不可避となり、（緊急事態対策としてのセーフガードは絶対必要ですが）食品・農産物、軽工業品や建材・電化製品と言った生活必需品を輸入に頼らざるを得なくなります。これら産品の国内生産者は海外生産者と協定を結び日本市場向けの規制規格・生産技術指導、商標使用、製品引取りの契約を結ぶことになりますが、この際信頼できる相手先の見つけ方や協定に関わる特許・ノウハウ・商標等の知的財産権の保護とロイヤルティの確保をどうするかの助言も重要です。

Contents（目次）

P1… 年頭ご挨拶
中小企業人材育成支援策に最大限の協力をします　理事長　網谷　昭寛
P2… 貿易相談を一つ…　永野　靖夫
P3… ガーナといえばチョコレート　清水　春樹
2010年の為替相場を振り返って　林　欣吾
P4… 久し振りのマカオ　片本　善清
P5… 2010年新婚旅行記　能美　仁博
閑談：清里で考えたこと　寺尾　邦彦
P6… アナログ時代の雑記録　橋本　浩一
P7… AIBA安全保障勉強会に参加して　鈴木　忠幸
アジアFTAとTPPの結節点となる　山岡　裕明
P8… 「AIBA食品グループML」について　野本　功司
P10… 支部活動（首都圏地区、北日本支部、東海支部、関西支部、中国四国支部）
P12… AIBANET論壇、アドバイザーの活動〈講演・講師〉〈相談アドバイス〉〈その他〉
P15… 理事会議事録（抄録）

(5) 国際分業が進展すると、これまでの数倍の輸入品を購入することになりますが、そのための外貨はどこから確保するのか。他国では真似のできない高品質の製品輸出や特許料・指導料、ソフトウェア等の技術収入をコンスタントに外貨として稼ぐ必要があります。

それにはドイツの先例が参考になるでしょう。ドイツ外務省編纂のウェブサイト「ドイツの実情」(日本語版) http://www.tatsachen-ueber-deutschland.de/jp/economy/main-content-06.html の経済欄をご一読ください。

ドイツは一方ではEU内で最大の輸入国でありながら、他方ではGDPの3分の1を輸出する世界最大の輸出国で、輸出品の殆どは精密機械類やハイテク製品であり、その背景には労働者の持つ極めて高い職業能力や資格があり、中小企業メーカーでも彼らが作る製品の品質に強いプライドを持っています。

日本も今後ドイツ型を志向するには理系教育の強化と技術の維持向上への企業内での努力が必要です。

(AIBA会員貿易アドバイザーの充実を目指す)

(6) ジェトロ認定貿易アドバイザー試験を受継いだAIBA認定貿易アドバイザー試験は依然合格率20%前後の難しい試験ではありますが、最近の合格者は優秀な方が多い上に殆ど全員が自主的にAIBAに入会されアドバイザーとしての一層の研鑽に励み講師・相談員として中小企業経営者の皆様のご要望に応えられる準備ができています。AIBA会員には「貿易アドバイザー協会会員証」カード(有効期限5年)を発行しています。

AIBA会員は、独立の貿易コンサルタントとして多方面で活躍されている方々のほか、合格後大学教授・講師として教職に就かれた方々、合格後ジェトロや自治体の貿易相談員として採用された方々、貿易実務関係書籍を出版された方々、更には企業在職中の方々も企業内で講習会講師や貿易業務相談員として活躍されています。

なお、上記AIBA認定試験にご関心ある方は、当協会ウェブサイト http://www.trade-advisers.com をご覧ください。(試験について;サンプル問題;受験対策セミナーご案内<但し全て2010年度版>が掲載されています)

貿易相談を一つ…

永野　靖夫(東京　#68)

昨年12月初め、私の貿易相談デスクにバングラディッシュ出身のA氏が訪れました。開口一番、永野はどういうサービスを私に提供できるのかとおっしゃいます。そう言われても、答えようがなく、どんな商売を考えているのかと質問したところ、バングラディッシュからアパレルを輸入したいとのこと。依って、永野が実例を知っているなら、教えて欲しいとの言い分です。

正直なところ、実例と言われても、あるようなないような…、適当に話すことは可能ですが、それで良いものかどうか、思案に暮れました。そこで、取り敢えず、もう少し、SPECIFICな質問にしてもらえないかと申し上げた次第です。しかし、実例を知っているなら、教えてくれれば良いではないかの一点張りで、埒があきません。

話しながら、こういうケースは前にあったかな? と思い出そうとしました。しかし、あったことは記憶にあるものの、どう難局を切り抜けたか、年齢の所為で一向に頭に浮かんできません。正直、参ったなと思った瞬間、思わず「日本に来てどの位になるの?」と質問していました。

「25年かな」とA氏。

「最初は何をしてたの?」と私。

「サラリーマンをしてました」とA氏。

「それから、独立した訳? 苦労したでしょう」と私。

ここまで、話が進んだ時、A氏の表情が急に和み、以下の話をしてくれました。

「休日や夜間は、軽トラックを借りて、売れそうなものは何でも仕入れ、売りまくって、金を貯めたこと。そして、数年後に、それを元手にリサイクル・ショップを開業し、現在、3店舗持つに至ったこと。

一方、先日、母国から来日した繊維メーカーの社長を知り合いの日本企業に紹介したところ、当の社長が大変喜んでくれ、引続きサポートしてほしいと言われたこと。

この後は、極く普通の貿易相談になりました。A氏の質問に対して、私の最も得意とする貿易実務の知識を駆使して(!?)、適当(適切かつ当を得たと言う意味です)に応接し、一件落着しました。多分こうなるだろうと途中で思いましたが、最後は喜んで帰ってくれて、正直ホッとしました。

後で感じたことですが、A氏には日本人にはない迫力があったな…と言うことと、異国の地で頑張っていくには、あの程度の迫力は当然なのだろう…と、妙に納得した次第です。と同時に、3店舗で10名程度の従業員は雇用している筈で、従業員の家族をも合わせると

20-30人の生活がA氏の肩に掛っていることになります。この不景気の世の中で、これだけの人数を養っていくのは容易ではないなと思うと、どうにか、A氏にこれからも頑張ってほしいと思わずにはいられませんでした。

ガーナといえばチョコレート

清水　春樹（神奈川　#618）

新年あけましておめでとうございます。

AIBA会員の皆様の2011年の益々のご活躍をお祈りいたします。

私は会員番号618の清水春樹と申します。昨年はガーナ貿易産業省でJICAの中小企業振興の仕事のため7カ月ほどガーナで過ごすことになりました。

海外でご活躍経験の深い皆様はガーナというと何を思い浮かべるでしょうか？ …恥ずかしながら自分はチョコレートくらいしか知りませんでした。それ以外のことでは何か思い浮かびますでしょうか？ …せいぜい、黄熱病のワクチンを開発しガーナに倒れた野口英世というところではないでしょうか？

ではガーナの人に日本の事を聞くとどうでしょうか？ ほとんど知られておらず、町を歩いていてもニーハオと声を掛けられます。そうなのです、自分でもそうでしたがワールドカップの開催された南アは別としてアフリカと日本はお互いになじみが薄いというのが事実ではないでしょうか？ 日本のバブル崩壊に伴いそれまで進出していた大手商社はすべて撤退したため現在では進出日本企業はほとんどないと言えるかと思います。

日本との貿易ではガーナはココア豆を輸出し、輸入は自動車関係（タイヤ、タイヤチューブ、部品）、その他工業製品ですが経済関係が限定されていると言えます。

ガーナは金、カカオ、木材の一次産品を輸出し、日用品を含む消費財を輸入するという経済構造のため、一次産品を加工し付加価値を増やし雇用拡大→貧困削減を目指しております。

良いニュースは新たに石油・ガス油田が発見され12月15日には最初の商業採油の記念式典が行われました。2011年には日量12万バレルを産出、2012年から2030年までの間で、当初発見されたJubilee油田だけで200億ドルの収入をもたらすと期待されるとの記事もあります。これに伴い日本よりも三井物産、丸紅の進出が報道されております。ガーナは中央西アフリカでは政治的に最も安定し治安も良くアフリカの民主主義の「優等生」とされておりますので、この石油・ガスの国家収入によりアフリカのタイガーになるとの政治家の発言もあり、今後の経済成長への大きな期待がもたれております。

中国は資源大陸アフリカでの存在感が増しており、ガーナでも石油・ガス採掘のみならずインフラへの巨大な投資が報道されております。インドのTataの車、韓国の製品や建設業の進出も身近に感じることができます。日本よりの商社の進出により今後官民上げての両国の交流が深まり、両国のみならず日本とアフリカの民間レベルでの交流を通じてアフリカがより近くなることを願って止みません。

また。インフラから日用品まで巨大なニーズを抱えるアフリカで今後AIBA会員の方の中にも活躍される方が増えてくることを願っております。

筆者講師より中小企業セミナー・修了証授与

2010年の為替相場を振り返って

林　欣吾（岐阜　#532）

2010年は、円高が顕著に進行した年となりました。一番の円安は5月の94.99円、逆の円高は11月の80.21円と、約15円弱の値幅となりました。また、2兆円を超える為替介入が約6年ぶりに行われました。

その他にも様々なトピックスがありましたが、以下簡単に振り返ってみたいと思います。

昨年は、米国・欧州（特にギリシャやポルトガルなど）の経済、財政問題がクローズアップされた年となりました。3月には、ギリシャ救済策に対する加盟国間同士の軋轢が生じたり、ギリシャ以外にポルトガル国債の格付けが引き下げられたことで、ユーロが売り込まれたことがありました。また5月には、欧州においてギリシャ支援が合意されたことなどにより一時、94.99円の、昨年の円最安値を付けたこともありました。

国内のほうに目を向けますと、政治の問題があります。6月には鳩山首相が退陣し、菅氏にバトンタッチしました。その後も、7月の参議院選挙で民主党が敗北し円売りが進んだこともありました。

元来、政治が不安定だと相場には悪影響を及ぼすことが多いといわれており、通貨安材料とされています。一時的には円が売られたこともありましたが、結果と

して長続きしませんでした。

昨年の場合、通貨安競争ということばがありましたが、輸出振興による景気回復を世界各国が進めようとしていた中、一度は介入を行ったもののそれ以外は無策といってよく、円高が必要以上に進行したといえます。

その通貨安競争ですが、10月に行われた「G20財務相・中央銀行総裁会議」で、通貨安競争を回避することで合意しましたが、具体策は見送られたことから円が買われました。

また、上記にも記しましたが、9月には為替介入が実施されました。2兆円を超える最大規模のもので、円相場は82円から85円台へ急落しました。しかし、その効果も長続きしなかったことは周知のことと思います。

さて、話は前後しますが、おとなりの中国では、6月に中国人民銀行が人民元の弾力性強化を発表し、リーマンショック後ほぼ固定されていた人民元相場の変化に注目が集まりました。

日本は同じアジアの国ということで、人民元高は円高材料とされていますが、少しずつ元高に推移しているものの、それを要因とした円高ということにはなっていないようです。人民元の問題は今年も何らかの動きがある可能性がありますので、今後の成り行きにも注目したいと思います。

また、同じく隣国の朝鮮半島では、11月に北朝鮮が韓国を砲撃したためドル買いが強まりました。「有事のドル買い」という言葉がありますが、この時はまさにそうなったわけです。

さて、いろいろ書き連ねましたが、皆様はどのようにお考えになるでしょうか。

結果として昨年は円高傾向となったわけですが、私の感想としては「円高」というよりは、「米ドル・ユーロ安」と言えるのではないかと思います。

上記にも記した欧米の経済問題や、米国の経済指標の推移などが材料としてみなされ、ドルやユーロが買われたから円安になった、また逆に売られたから円高になった、ということが多かった一年だったと思います。

現状、政権が不安定な状態となっていますが、国内の諸問題のなかでも為替の問題は最重要課題の一つであり、日本経済浮上のためには緊急の対応が求められています。来年の今頃、どんな結果を振り返ることになるか、楽しみにしたいと思います。

久し振りのマカオ

片本　善清（奈良　＃422）

11月に久方ぶり実に14年振りに、全面一変した新マカオ（澳門）を訪れました。

中国・珠海に業務出張したついでに、わが先輩A氏と会うためと、今回の出張同行者二名がマカオを未経験ということで、午後4時ごろより、徒歩でマカオ行きを実行した。

先輩A氏（大学の先輩、現在76歳ながら、昨年よりマカオの日本人観光客専門の旅行社に勤務）の本職の観光案内で、マカオど真ん中の「マカオ観光センター」で、ただの30分で世界遺産指定の三十箇所を、写真や資料で見聞し一応全マカオ観光終了です

それじゃ、余りにふざけた話ですので、その後、街の中心部の聖オーガスティン教会や有名な聖ポール教会遺跡（正面の壁と前面の階段を残して焼けてしまった）など見て、街を散策し、大いなる懐古の気分でした。そして少し早めの食事ながら、セナド広場の「龍記」で美味しい広東料理を味わい、その後カジノの新名所・新リスボアGrand Lisboaへ行き、わずかな時間ながら「大小」を楽しみました。

このマカオのカジノは4年前の2006年にラスベガスを抜いて約70億米ドルの売り上げで、世界一位になったそうです。しかしこの老香港人には、1970年代から1980年代までのあの赤い100HKドル札や緑の10HKドル札で、現金を賭けられた時代が、不思議と今より懐かしく思い出されました。時代の流れ・時間の経過そのものですね。

現在では、実際に昔の極々小さなマカオが、南の島二つを埋め立てて繋いでしまい、この新しい島と本来の島とは架け橋「友誼大橋」でつないでいます。

この島には国際空港もでき、その他大規模なリゾート地、千数百室の大型ホテルや多数のカジノ場が出来て今では20軒以上もあるそうです。昔は旧リスボアホテルと他には一二軒しかなかったのですが。さすがに観光とカジノの都市・マカオと言ったところです。

いまひとつ説明が要るのは、珠海とマカオは陸続きで、ゲート（税関・関所）を超えるだけで、徒歩で片道約30分で行き来出来ます。ただ税関を通るとき人が多ければ時間が多少掛かり、それでも片道40分で行けます。また夜12時までゲートが開いていますので、不便は全く感じません。現在では、関空よりマカオ空港まで、直行便が飛んでいて、仕事のついでに『ひと勝負』という二泊三日の旅も良いものです。

聖ポール遺跡

2010年新婚旅行記

能美　仁博（東京　＃604）

私にとって2010年は、「結婚」の年でした。2010年1月にプロポーズをし、11月に結婚式と新婚旅行をしたので、ほぼ丸一年、結婚の準備等で過ごしたようなものです。

新婚旅行は、6泊8日でオランダとベルギーを廻りました。オランダの首都アムステルダムで2泊3日とベルギーの首都ブリュッセルで4泊5日を過ごし、途中、ダイヤモンドやノートルダム大聖堂で有名なアントワープ、水の都として知られているブルージュ、コンテナターミナルのあるゼーブルージュ（以上全てベルギー）に立ち寄り、半日ずつを過ごしました。

アムステルダム

アムステルダムは空港から電車一本で行けるオランダの首都です。首都でありながら観光名所も多く、ゴッホ美術館、シンゲルの花市、ガッサンダイヤモンド研磨工場、アンネフランクの家、ハイネケン工場、風車、跳ね橋、海洋博物館に科学技術博物館などがひとつの街に点在しています。

観光バスが出ていて、それを利用してまわりました。運河を走る小型船に乗って町並みを巡るコースもあり、冬の時期でも十分に見応えがありました。

アントワープ

アムステルダムからブリュッセルに向かう途中にあります。ダイヤモンドで有名な街でもあり、街の至る所でダイヤモンドが売られています。

フランダースの犬で有名なノートルダム大聖堂があり、中の絵画とステンドグラスは圧巻の眺めです。

街の北を走るスヘルデ川は、海にもつながり、遠くにコンテナターミナルの姿も見えます。モード博物館や海洋博物館も見に行きましたが、あいにく定休日でした。

ブリュッセル

移動を除けば丸二日間滞在しました。ベルギーの首都であり、建物のつくりも高層ビルが立ち並び、交通も混雑しています。

ビール博物館やチョコレート博物館などの見どころもありますが、何よりおいしい料理とお菓子を食べるのがここの一番の醍醐味です。フランス料理にビールがついていたり、コーヒーにチョコレートがついていたり、ワッフルにトッピングをしたりなど、いかにもベルギーらしい組み合わせでした。

ゼーブルージュ

ガイドブックに乗っていない場所でしたが、ブルージュからも近かったので時刻表をみながら行きました。現役の港町で、コンテナターミナルを間近で見られます。湾岸を走るトラム（路面電車）からの風景がきれいでした。

ブルージュ

観光名所です。何といっても町並みが綺麗で、街を走る運河が絶景となっています。小型船に乗る運河巡りが名物でしたが、天気が悪く、欠航となりました。ベルギーレースとしても有名な街で、レース博物館もあります。

11月のベルギーは日本よりも格段に寒くマフラー帽子手袋が必須です。

道に迷いやすいので、事前の下調べが重要になります。

普段は統計などでしか目にすることのなかった国ですが、現地に行って見て生の雰囲気を味わうことができました。

閑談：清里で考えたこと

寺尾　邦彦（東京　＃270）

「忙中閑あり」――最近、筆者は業務の合間をみて、家族との一泊ないし二泊程度の国内小旅行に出掛けることにしている。昨年は北陸、東北地方、京都・奈良方面や近郊の海山にそれぞれ2～3回以上出掛けた。特に秋の出羽三山では、若干　修験者を想像しながら縦走し、また、その前に立ち寄った鶴岡では、半年前に開設された藤沢周平記念館で、庄内平野の豊かな自然や文化、人情味溢れる作品の一端に触れることができた。

また、この数年間は、年末から年始を八ヶ岳山麓の清里で過ごしている。その間に、2～3回、飯盛山（めしもりやま、標高1,643m）に登る。野辺山高原にある、飯を盛ったような美しい山容の小山で、夏には山麓に高原の可憐な花々が咲き誇り、四季を通じて自然を楽しむことができる。JR小海線の野辺山駅、清里駅から歩くコースもあるが、筆者は通常、平沢峠（獅子岩、1,450m）までは車で行くので、実際に歩く標高差は200m弱、往復2時間弱の手ごろなトレッキング・コースであり、2,000m以上の山に登る前の足慣らしに適している。滑落危険個所もない、比較的平坦な尾根道を辿ると、頂上に到着する。晴天の日には、広大な八ヶ岳連峰、南アルプス、富士山、金峰山、瑞牆山〈みずがきさん〉奥秩父、浅間山など、360度の眺望が満喫できる。今回はあいにく富士山の上部は雲に覆われていたが、周囲の山々は神々しく雪をかぶり、連なっていた。

元来、飯盛山近辺は降雪量が比較的少ない地域だが、昨年末は例年に比べて積雪があったので、一歩一歩、踏み締めながら登った。途中で何度か、雪道を横切る小動物の足跡に出会い、厳しい環境を生き抜く動植物の生命力や自然との共生に思いを馳せた。

また途中で、眼下に野辺山の国立天文台・宇宙電波

観測所の大きな円形のアンテナを望む。空気が澄んでいるので、観測場所に選定されたと聞く。確かに清里付近では、晴天日の夜は多数の星の瞬きが近くに見える。筆者が天文台を見て連想したのは、小惑星探査機「はやぶさ」についてである。7年間、60億キロの旅を経て小惑星からのサンプルの持帰りに成功した快挙は昨年、ノーベル化学賞受賞と並んで大きく報道され、プラネタリウムではCGが放映されている。現在の社会・経済的閉塞感の中での明るい話題にはなったが、線香花火に終らないことを大いに期待したい。

宇宙開発などの科学技術分野において、日本が「世界の一番手」を目指す必要性について、とかく「費用対効果」に関する近視眼的な観点から、批判の声が上がるが（昨年の事業仕分けはその典型）、最近の日本の国際競争力の低落振りが嘆かわしくなるのは、筆者ばかりではないと考える。

「はやぶさ」プロジェクトを通じて特筆すべき点は、JAXAプロマネ（川口教授）によれば「ひとづくり」であった。チームの各人が創意工夫して、課題に取り組み、困難を乗り越えて行ったことであり、日々の小事の積み重ねのうえに大きな成功を勝ち得たことだ。また「ものづくり」の分野でも、中小企業〈町工場〉の地味で、たゆまぬ努力が貢献したと伝えられる。

近年、グローバル化の進展とともに、新興国の目覚しい発展と発言力が増し、世界はG8からＧ20の時代に入った。日本は変転極まりない国際環境の中で、外交、安全保障、政治、経済、科学技術、文化など、様々な分野においての戦略的・戦術的な対応やリーダーシップのあり方が問われている。このような環境変化の中、中小企業等は好むと好まざるとに関わらず、国際取引や海外展開についての検討を迫られていると考える。わがAIBAとして、これらのニーズにどのように迅速・適切に応えられるのか？

最近の引合が、従来からの貿易実務の“how to”的な支援のみならず、法務、会計、税務、輸出管理等の専門分野や、BRICs、アジアなどの地域専門家、環境、省エネ分野等、専門的で現実に即したものに多様化しているので、今後の課題と対応について、会員同士で大いに議論し、切磋琢磨する必要があるように思う。

なお、私事になり恐縮だが、筆者は今年、年男である（何回目かはヒミツ！）。個人的には、長い耳（アンテナ）の感度を良くして、今まで時間的制約もあり実行できなかった、未達の分野で、僅かながらでも飛躍したいと考えている。

何事も健康第一なので、毎朝のウォーキングと時々の山歩きや小旅行は継続して行きたい。

アナログ時代の雑記録

橋本　浩一（東京　#374）

世はまさに、すべてデジタル。骨董品趣味のようですが、かつて、この国が元気であったころ、商社マン1年生の私が体験したいくつかの記憶をここに残すのも一興と思いました。ちなみに、1950年代に民間貿易再開時の初代貿易庁長官は白洲次郎氏で、のちに通商産業省を誕生させ、暫くしてジェトロが発足しました。当時は輸出準備申請書、輸出許可申請書など、複雑な手続きに、銀座木挽町にあった貿易庁に日参したものです。当時は輸出のみ可能で、輸入が許されたのは、外貨準備が累積された、ずっとあとのことでした。

1. パンアメリカン航空の乗客名簿の社内伝達の表現。携帯も、メールもFaxもTelexもなかったそのころ、たとえば乗客にAIBA一郎さんがいた場合、電話で：
able-item-baker-able space item-charlie-how-item-roger-oscar-uncle と伝えます。それをタイプライターが文書の形にしました。ほかは下記の通り。

A-able, B-baker, C-charlie, D-dog, E-easy, F-fox, G-george, H-how, I-item, J-jack, K-kate, L-love, M-mike, N-nancy, O-oscar, P-peter, Q-queen, R-roger, S-sugar, T-tear, U-uncle, V-victor, W-william, X-xray, Z-zebra

2. 日本語はどうだったでしょうか。日本電信電話公社が受託した電報発信のとき、下記のように社内伝達しました。

商社など発信依頼者にもこれがよく使われました。（Faxが出現したときの感激は忘れられません。）
アイバ：アサヒのア、イロハのイ、ハガキのハにだくてん。以下五十音は、つぎのとおり。実際の発信、送達はカタカナでした。
あさひのア、いろはのイ、うえののウ、えんぴつのエ、さいのオ、（カタカナのオは、才能の才ににたため）かわせのカ、きってのキ、くらぶのク、けしきのケ、こどものコ、さくらのサ、しんぶんのシ、すずめのス、せかいのセ、そろばんのソ、たばこのタ、ちどりのチ、つるかめのツ、てがみのテ、とんぼのト、なごやのナ、にっぽんのニ、ぬりえのヌ、ねずみのネ、のはらのノ、はがきのハ、ひこうきのヒ、ふじさんのフ、へいわのヘ、ほけんのホ、まっちのマ、みかさのミ、むせんのム、めじろのメ、もみじのモ、やさいのヤ、いろはの

イ、ゆみやのユ、えんぴつのエ、よしののヨ、わらびのワ、おしまいのン。
（カネオクレタノム）が【金送れ頼む】か【金をくれた飲む】か…落語の世界でも論争がありましたね。

3. 平方根の暗記。旧制中学最終年度卒業生の私が数学の先生に教えられたもの下記のとうり。
ルート2　1.41421356（ひとよひとよにひとみごろ）
ルート3　1.7320508（ひとなみにおごれや）
ルート5　2.2360679（ふじさんろくおーむなく）
ルート6　2.44949（にたよよくよく）
ルート7　2.64575（なにむしいない）
電卓で検算をお勧めします。お粗末でした。

こんな昔話を取り上げたのは、（ITがもっと身近かな社会に）という元日の日本経済新聞をみて、この50年間に私たちの社会環境が大きく進歩している事を、あらためて認識し、この変化をもたらした人々の（情熱）をわれわれもうけつぎ、今の閉塞感を抜け出す努力をするべきじゃないか、と思うゆえです。
温古知新【ふるきをたずねて、新しきを知る】という言葉を思いだしましょう。

AIBA安全保障貿易勉強会に参加して

鈴木　忠幸（埼玉　＃509）

私は、現在、海外向け火力発電プラントの営業のコンサル的な仕事をしていますが、その契約交渉、締結に際し、輸出品または輸出技術の安全保障上の輸出管理について仕向先国の顧客の協力を得ることが必要で以前よりこの分野に関心を持っていました。また、この分野は、貿易アドバイザーの仕事の枠のなかにも入るものと思っています。
毎年6月頃より、隔週または週一回AIBAの仲間との勉強会が開催されており、それに参加をしてきました。具体的には、（財）安全保障貿易情報センター（略称：CISTEC）が認定する「安全保障貿易管理士」の資格取得を目指してきましたが、おかげさまで2010年度の試験で「総合」と「法令」に同時合格することができました。
2009年に大きな外為法の改正があり、重要な点として二点あります。一つは、特に技術の提供については、「特定国において」又は「特定国の非居住者へ」の技術の提供と規制対象範囲が拡大され、全方位的に規制の網がかぶせられました。したがって、輸出契約を締結する際に外為法上の許可の要否を以前にも増して神経を使う必要があります。私の担当する分野においては、リスト規制品に該当・非該当となるかの技術仕様の判断は別としてリスト項目の名前が一致する分野（キャッチオール規制項目も含み）として、原子炉の制御技術、大型発電機、軸受、加工技術、計測器、電子計算機制御、センサーなどがあり、安全保障規制のステップを踏むためにタイミングよく当方側の検討と、顧客側の協力を要請することが必要で是非とも取得したかった資格です。関心を持っておられる仲間との勉強会は、いろいろな見方、考え方、情報源の多様さなど、ひとりで勉強する場合と違い非常に役にたちます。
また、外為法改正のもう一つの重要な点は、およそ貨物の輸出または技術の提供をしようとする者は、新しく定められた輸出者等遵守基準に従い、自分のまたは社内の輸出管理遵守規程を作成し、行動することが要請されています。このための作成準備や行動の仕方などの相談を受けたり、指導するなどは、われわれ貿易アドバイザーの仕事のひとつしてその知識習得は必要だと思います。
2011年度も勉強会は開催されると思いますので、関心・興味のある会員はぜひ参加をご検討ください。

アジアFTAとTPPの結節点となる

山岡　裕明（奈良　＃173）

1. 最近の我が国は、日米安保の緩み、中国との紛争、財政赤字、人口減など、三度目の「奇跡」を求める程の国難の中にあります。成長の切り札の一つ・貿易に関して言えば、TPPへの早急な加盟と、アジア広域FTA（+6）への参加、そしてこの両FTAの結節点として、アジアと共に生きるというスタンスが求められていると思います。

2. 我が国がGATT（今のWTO）に加盟したのは1955年。貿易自由化一括交渉が新興国の台頭などで難航し、情報化・物流改革・工程別分業など近隣諸国との域内経済連携強化が必要となってきたこと等から、FTA（EPA）を含む重層的通商へと政策転換したのは1999年です。一方、ASEAN（東南アジア諸国連合、10ヶ国）は、その強靭な結合力で共通組織化へと向かい、97/8年のアジア経済危機を克服したばかりか、東アジアの中核政治主体として、今では自他ともに認められる存在です。2020年には安全保障、経済、社会・文化の3つの共同体からなるASEAN共同体を実現するとしています（バリII）。そのEAS（東アジア首脳会議）には、97年以来+3として、日本、中国、韓国が、また05年からは+6として、インド、オーストラリア、ニュージーランドも加わって、ASEANを母体とする東アジア包括経済連携（CEPEA）構想の検討が継続して行われてきました。
他方、「東アジア」ではない米国では、アジアでの地歩を維持すべく、積極的な関与を求めていましたが、APEC（アジア太平洋経済協力会議）横浜会議後に、全品目の原則関税撤廃を掲げるTPP（Trans Pacific

Partnership Agreement：環太平洋連携協定）を中心に据えて、直ちに行動を起こすという方針を明らかにしています。

3. ところで、韓国ではアジア通貨危機克服後、輸出拡大こそが成長の源泉と、2003年に「FTAロードマップ」を作り、官民一体でFTA構築に力を入れ、昨年12月には米韓FTAの合意をみました。約10年後にアメリカへトラックを輸出する場合、日本製には輸入価格に25%の関税が掛るのに対し、韓国製は輸入価格そのままで米国市場に入れることになります。この差は大きく、あたかも日本企業はトラックの米国市場を韓国に譲ったようなものです。韓国は、EUやインドとも既にFTAを署名しており、このままでは日本企業の大輸出市場での、更なる苦戦が予測されます。「45ヶ国とFTAを締結している国は世界で韓国しかない。韓国は国土は狭いが、経済領土は世界一だ」（韓国・李明博大統領、12/8'10日経）。

4. 昨年前半まではわが国では、＋3、＋6、TPPの3案を並行して検討してきました。しかし、昨年9月から11月にかけて事態は急展開したのです。9月7日の尖閣沖での中国漁船による衝突事件、ハノイで中国が首脳会談を拒否。この間に行われた第5回EAS会議では、議長国（ベトナム）の招きで米国とロシアが正式メンバーとなり、＋8となりました。従来ASEAN+6で討議されていた経済圏構想も今後は政治・安全保障問題へと議論が変質してゆく可能性があります。同時に、＋6での日本の主導権も極めて厳しくなってきたといえます。

更に、APEC横浜会議後、わが国が求めたTPP正式加盟前のオブザーバーでの出席は、拒否されてしまいました。

5. 我が国が一旦FTAへの方針転換を決めながら、FTA交渉で効果的な交渉に至れないのは、我が国の農業問題が根底にあるとされます。もともと、米価を高く維持して農家を保護し、市場価格が下がらないよう減反政策で量的に調整するということ自体に問題があるように思えます。ものの生産努力はコストを下げ、良い品を市場に安く提供できる消費者志向に行く筈です。米価を「高く」維持する政策はこの経済原則に逆らっていることになります。豊作で米価が安くなっても、減反せず、更に合理化は進めてコストを下げ、輸出に回し、需要と利益を拡大できる農業経営が必須です。内外価格差は縮まってきており、ちなみに現在中国では、輸入関税、卸や小売会社のマージンを上乗せすると、日本の港での船積み価格の2倍近くで中国の店頭に並ぶといわれます。逆算すれば現在の半値近くまで米価が下がっても経営できる力を日本の農家が付ければ、常時コメの新たな輸出市場が開ける可能性があります。大きな努力ですが、高温多湿を活かした複合経営、営農規模の拡大や品種改良等を含め競争力のある画期的なイノベーションが求められます。

隣国が経済大国になることは相互にプラスです。わが国は、世界第2位の経済大国となった中国を敵に回してはなりません。わが国は、経済面から中国・インド・韓国を含むASEAN+6のアジアFTA市場とは長期的に更に関係を深めるとともに、政治・安保上からは、アメリカを含むTPP市場へは即刻ルール作りの段階から参加を表明してしっかりと固め、この両市場の扇の要（結節点）としての機能を果たすべきであります。その為には、TPPの段階的関税全廃期限である凡そ10年以内には、自由化に耐えうる・効率的で市場競争原理の効いた強い農業を作り上げ、アジアと共に生きつつ、グローバルをも窺うべきです。今や、国民一人一人が我が身を律して、国家的難局を克服する努力が求められていると感じます。

以上は「AIBA関西支部・中国アジア研究会」12/4での要旨です

「AIBA食品グループML」について

野本　功司（東京　#76）

AIBA会員が任意に加盟するMLのシスオペ野本です。

「AIBA食品グループML」が開設され、丁度一年が経ちました。現在、食品関連業務に興味を有する40名の参加を得て、参加者間の情報提供・交換、交友の場として自由に使って頂いています。

最近のML投稿から下記2件を御参考まで御披露します（MLに新たに参加御希望の方は、その旨シスオペ野本までお知らせ下さい）。

1.「新たなビジネス・モデル構築」可能性

（#12　井上隆彦さん、11月7日投稿）

新参者ですので、よろしくご指導いただきますようにお願い致します。

AIBA-NETに、11月6日付け、網谷理事長発信の

「[aiba：07582] 茨城県農林水産物・農産加工品輸出協議会貿易アドバイザー候補募集」がありましたが、同様に、10日18日付け、清田会員の［aibashokuhin-grml：0156］「中国向け日本食品輸出の現状」が投稿されています。各地で農水産物加工品の輸出促進事業が取り組まれているようです（恒例のFOODEXの案内も有りました）。

インターネットで、「農水産物等輸出促進協議会」を検索しますと、いくつもヒットします。小生の見聞するところでは、富山・金沢で、同様のイベントが有りました。富山県、富山県農林水産物等輸出促進協議会の主催の「中国バイヤーズ in 富山」ですが、これは、寺尾事業本部長が岡部会員をセミナ-講師にアレンジされた件です（金沢でも、開催されました）。

以下、感想です。

地公体は、躍起になって、地元産品の中国向け輸出に力を入れているようで、上海や大連に設置した各連絡事務所のほか、地元金融機関や地元ジェトロ事務所（所長が、商談会開催セレモニーのテープカットにも参加している）を動員し、講演会や商談会を開催しています。

しかし、実際の効果となると、「さっぱり」との意見が聞こえてきます。なにが、問題なのか、われわれAIBAが、知恵を出すべきチャンスと思います。

われわれ、AIBAが、各種イベントの企画段階から参加し、実効ある事業に仕立て上げることで、貢献できるのではないでしょうか。

「AIBA食品Forum」として、何らかの「ビジネス・モデル」を提案することが出来れば、素晴らしいことだと思います。皆様の知見を活用できる機会ではないでしょうか。

2. 食品、農水産品輸出振興

（＃469　塩田靖浩さん、11月25日投稿）

先週一杯、広島県食品輸出協議会のパリ商談会に随行しておりました為、標記に関する発言が遅くなりました事をお詫び申し上げます。

特に、貿易コンサルタントとして独立して居られる方々が、農水産品輸出をビジネスに繋げる為には、政府が行っている、以下の事業に関与する事が考えられます。

・農林水産省：輸出促進事業（2分の1補助事業）

当該事業は、実施主体（通常は複数企業や生産者による協議会）が2分の1負担、農水省が2分の1補助を行うことにより、貿易等の専門家を「プロモーター」として配置する事が出来ます。

小生は、現状、広島県食品輸出協議会（Agri & Foods Export Frontier, Hiroshima）のプロモーターを拝命しており、広島県内企業15～20社が参加する海外商談会（昨年度：シンガポール、上海。今年度：台北、パリ、香港、クアラルンプール）で商談支援を行っております。AIBAが、組織としてこの事業を活用する意思があるならば、例えば、AIBAと全農などの全国組織がプロモーター契約を結び、各地方の農協が海外商談等を行う際に、その地方のアドバイザーが海外商談に随行するような仕組みが考えられます。

http://www.maff.go.jp/j/export/e_h22_zigyou/taisaku.html

・農林水産省：輸出促進事業（輸出オリエンテーションの会）

農政局がある各地域で年1回、国内外のバイヤーを集めた、一種の輸出商談会が開催されています。こちらは、AIBAが組織として関与する余地は少なく、食品輸出に通じたアドバイザーが、実施主体（通常は、JTBコミュニケーションズ）にアプローチを図って、同会の「講師」としての参画を狙う事が考えられます。
小生は個人的に東京、鹿児島で講師を務め、次回は来年1月に名古屋で講師を務めます。

「名前を売ること」や「バイヤーとの接点構築」が目的であればお勧めですが、ビジネスとしての妙味は非常に薄いのが実情です。なお、「バイヤーとの接点構築」に関しては、毎回、バイヤーの顔触れはほぼ一緒ですので、2～3度オリエンテーションの会に参加しますと、控え室が「同窓会」と化します。

http://www.maff.go.jp/j/export/e_h22_zigyou/netwark_ori.html

・経済産業省：地域資源事業

地域資源事業の認定を受けた事業者は、特定用途の国内外の出張旅費、アドバイザー経費等について2/3の国庫補助が得られます。

小生も、現在、認定事業者の食品輸出を若干お手伝いしており、小生個人と企業とのアドバイザー契約に基づき、月額報酬を得ております。

上記農水省案件と比較して時間当たりの労力が少なく、且つ、やり方次第では、具体的な成果が現れます（現在支援している企業は、1年間で10カ国以上の輸出実績が出ました）ので、遣り甲斐のある仕事と言えます。

農商工連携事業についても、同様の関わり方が考えられると思います。

http://j-net21.smrj.go.jp/expand/shigen/

・中小企業庁：JAPANブランド育成支援事業

小生は、今年度の採択団体より来年1月～3月の調査⇒プラン策定の支援要請を受けておりますが、未だ着手しておりませんので、詳しい事は申し上げられません。ただ、採択団体の担当者と意見交換をしている限りで

は、魅力のある事業と感じています。
http://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/chiiki/japan_brand/index.htm

上記以外にもジェトロの食品輸出商談会で貿易相談対応を行う、地方自治体の食品輸出事業にアドバイザーとして参画する（最近、県庁からの要請を受け、小生は故郷島根の輸出施策の構築に関わっています）、中小機構のアドバイザーに登録して海外商談に随行する事なども考えられます。

（シスオペ追記）

ジェトロでは3月初旬開催の食品展示会「FOODEX」にあわせ、世界各国から40社の日本食品取り扱い業者を招聘して、各地で「食品輸出商談会」を開催します。この各地商談会には、我々「食品グループ」に属する諸氏がアドバイザーとして参画の予定です。

筆者は「市場開拓コーディネーター」として、日本側参加予定中小企業の商談会に向けての準備アドバイスの他、商談会にも陪席します。

支部活動

首都圏地区

11月27日（土）

首都圏勉強会

テーマ：「人員の海外派遣に伴う税務・労務面での諸要件について」
講　師：本間繁久会員（＃624）
場　所：都立産業貿易センター台東館
参加者：35名

12月18日（土）17：30～

首都圏忘年会

場　所：東京都港区海岸1-7-8　東京都産業貿易会館
地下1階レストラン「ピガール」

まず、岩田理事の司会で、網谷理事長の挨拶、渡辺副理事長の乾杯の音頭で始まりました。30分ほど歓談したところで、3分間スピーチを10人の会員に即席でお願いしました。今年、CISTECの試験の合格した、鈴木忠幸氏が挨拶したのを契機に、広島から参加した井上支部長、紅一点の大谷規世さん、前理事長の澤田敬之氏。そして、柴田洋二、作田憲三、馬淵野炎、中西尚孝、森重道、川村慎吾の諸氏にご登場願った。一年間を振り返っての感想、近況など自由にお話しいただきました。また、定例理事会の後、支部長にも忘年会に参加頂き、首都圏会員との交流を深めて頂きました。38名が参加した忘年会は7時ごろ、お開きとなりました。なお、忘年会には網谷理事長と澤田前理事長より各々大瓶20本のビール券を寄付頂きました。この場を借りて、御礼申し上げます。

北日本支部

○第3回AIBA認定貿易アドバイザー試験対策セミナー仙台会場で実施

実施日：平成22年10月3日（日）
会　場：仙台市情報産業プラザ・情報化研修室
（アエル5階、JR仙台駅より徒歩2分の好立地）
講　師：支部会員（戸村、大須賀、畠山）に加え、前年度合格、阿部会員の合格体験談、首都圏からの応援、作田会員の5名体制
申し込み受講者：6名（宮城県5名、福島県1名）
内　容：
・支部長挨拶：本部試験事務局からの「主催者挨拶・総合対策」基づいて説明および支部状況について…
畠山支部長
・前年度合格者「体験談・貿易所感」…
阿部一也会員（＃612）
・貿易英語　作田会員（＃443）
・貿易実務（1）Incoterms、契約、決済、外国為替
戸村会員（＃200）
・貿易実務（2）運輸、通関、海上保険、貿易管理令
畠山会員（＃372）
・国際マーケティング　大須賀会員（＃486）

○AIBA認定貿易アドバイザー試験一次試験、仙台会場第一回目の実施

試験日：2010年11月21日
場　所：対策セミナーと同じ仙台市情報産業プラザ
受験者：対策セミナー受講者のうちの2名（北日本支部管轄では東京での受験1名で合計3名）
試験監督：地元会員：黒沢会員（＃191）、畠山会員（＃372）で対応

今年の北日本支部、仙台会場での対策セミナー、一次試験の反省点としては昨年より申込者が多かったものの予定より少なく、宮城県に集中していたことが上げられます。来年は北海道、東北各県、新潟県の地元AIBA会員ともさらに連携・協力して受講者、受験者が多くなるよう早めの準備・PR活動をしていきたいと思います。次年度は是非、北海道・札幌地区での開催を望むところです。

将来的に北日本支部会員が各県、地区で少なくともと2~3名となり、組織的に地域の貿易促進に貢献し、会員各位の情報交換、更なる実力を磨きまた会員としてのそのメリットを十分享受できるような組織運営にしていきたいと考えております。

支部会員向けPR用AIBAだより、首都圏勉強会の資料一部送付、支部会員向けメーリングリストでの情報提供と仙台商工会議所のメルマガの配信等の実施。できる範囲で支部会員と個別に面談・情報交換等があげられます。

2011年新年、1月には東北、宮城県では新たにトヨタ系のセントラル自動車の本社移転による新工場で完成車が生産されます。初年度8万台が仙台港から名古屋に向け輸送され、世界に輸出されます。

将来的には岩手県金ヶ崎町にある関東自動車岩手工場での生産とあわせて50万台の完成車が生産され、一大自動車産業の集積が進むものと思われます。仙台港をはじめ東北の主力港から世界に向けて直接輸出も夢ではありません。北日本支部管轄の更なる地域活性化と貿易促進の発展のため貢献したいものであります。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

北日本支部長　畠山　茂雄　記

東海支部

12月4日（土）

例会

場　所：名古屋國際センター　会議室
講　演：
テーマ：「インコタームス2010」
講　師：ジェトロ　貿易投資相談課　石川 雅啓　様
テーマ：「真の貿易ファシリテーターを目指して」
講　師：ジェトロ　岐阜貿易情報センター所長
　　西本　敬一　様
参加者：18名

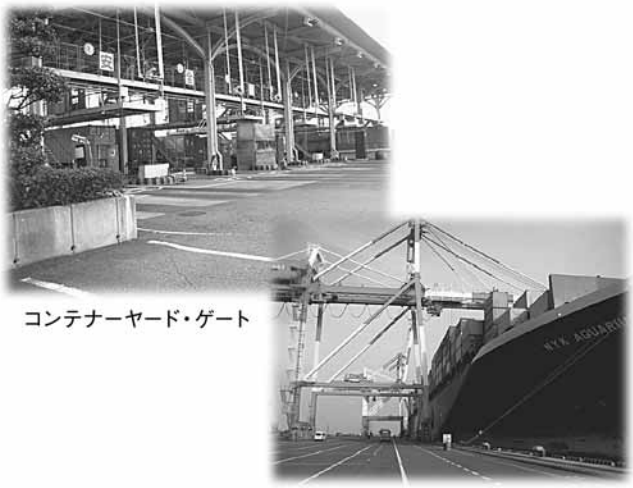
関西支部

11月2日（火）

神戸港湾施設見学・研修会

場　所：神戸港（税関、神戸港国際流通センター、神戸税関本関および同六甲アイランドコンテナ検査センター、日本郵船コンテナ・ターミナルRC_6/7、洋上視察）
参加者：35名（外部参加者を含む）

神戸港の貿易現状とX線によるコンテナ検査、さらには日本郵船のコンテナヤードで実際にコンテナを積み込んでいる現場を見学した。特にコンテナヤードでは、ゲートをコンテナが通過した瞬間に危険が移転するFCAと在来船で使用されるべきFOBの違いを実感することが出来、大変有意義な研修会であった。



コンテナーヤード・ゲート

コンテナ船積み

11月21日（日）

AIBA認定貿易アドバイザー試験・一次試験

場　所：大阪産創館（大阪市本町）
受験者：24名
試験監督者：門　元則（＃321）
事務方：神屋信仁（＃346）
事務方：千田昌明（＃621）

中国四国支部

12月4日（土）

平成22年度下期例会・勉強会

場　所：「高松シンボルタワー」高松市
・来賓：AIBA本部　網谷理事長
・講師：AIBA中国四国支部　貫洞アドバイザー

＜AIBA本部：網谷理事長＞

第3回AIBA認定「貿易アドバイザー」試験、対策ゼミ及び1次試験の総括報告、及び「グローカルデビュー・プロゼクトセミナー」の実施報告

＜研修講師：AIBA中国四国支部　貫洞孝彦氏＞

テーマ：「中東を知る」

世界で一番タフと云われている中東ビジネス。同地域に通算12年間（6年の駐在を含む）携わってこられた貫洞会員に一刀両断、明快に解説戴いた。
特に「アラブのIBM」「アラブの5Ａ」は大変示唆に富み今後中東でビジネスをやっていくうえで留意すべき事項として傾聴。

加えて各会員全員の活動報告発表。

アドバイザーの参加数：7名。来賓を含め計8名の参加

尚、例会終了後の懇親会では各自の近況報告を含め会員相互の情報交換を図った。

AIBA　NET　論壇

2010年10月～12月の間にAIBANET上で交わされた貿易実務に関わる情報、質疑の主なテーマを抽出しました。（表題を内容が推定できるように書き直してあります）

10月
國際ビジネス語-交渉・契約の言語
EU付加価値税の還付手続き
最近の中国物流状況-税関検査
Free Sales Certificateについて
ASEAN物品貿易協定を利用して三国間貿易
サウジアラビアへの機械の持ち込みについて
11月
代理店契約について
食品輸出の保証条件
裁判外紛争解決制度「ブランド110番」
12月
乾燥イチジクの輸入の問題点
輸出FOB保険
中国顧客から小額代金を安い手数料で受領する方法

アドバイザーの活動

2010年10月～12月の会員からの貿易アドバイザー活動報告を纏めたリストです。公表を避けて未報告の活動案件も多数あると推定されますので、本リストでは活動全般を網羅していないことを予めお断りいたします。

講演・講師

1. 永野　靖夫（東京　＃068）
10/6
栃木県産業労働観光部主催
「輸入入門-前編」
於：宇都宮市
10/20
栃木県産業労働観光部主催
「輸入入門-後篇」
於：宇都宮市
11/25
ジェトロ盛岡主催
「輸入失敗事例に学ぶセミナー」
於：北上市

2. 伊東　仁一（東京　＃223）
10/7
㈳日本インターナショナルフレイトフォワーダーズ協会主催
国際複合輸送士資格認定講座
「フレイトフォワーダーとその役割」
於：全日通霞ヶ関ビル

3. 平林　厚美（長野　＃312）
10/8
ジェトロ金沢主催
貿易実務講座と金沢港見学
「港（空港）でのモノの流れと関連情報」
於：石川県地場産業振興センター、金沢港
10/22
ジェトロ福島主催
横浜港湾施設見学会
「貿易・物流現場の視察」
於：NVOCC、CY・CFS、横浜税関
11/26
ジェトロ諏訪主催
貿易実務講座（通関・輸送編）
「通関・輸送の実務」
於：RAKO華乃井ホテル（諏訪市）

4. 井上　照章（広島　＃331）
11/5,26　12/1,22
広島商工会議所、広島県地域ジョブ・カードセンター主催
貿易実務講座（初級）
於：オールハウス㈱（安芸郡府中町）

5. 木村　徹（東京　＃347）
11/11
ジェトロ主催
サンプル輸出セミナー
「国際宅配便を利用して特産品を海外へ」
内容：
国際宅配便を利用したサンプル輸出の流れ・留意点と、中国向けの輸出と同国の輸入通関制度や規制について
於：奥州市鋳物技術交流センター

6. 中村　陽一（兵庫　＃364）
10/1～11/26　12/2～26
厚生労働省緊急雇用促進事業
「めざせ貿易実務検定Ｃ級合格」
於：エール学園（大阪市）
10/14
瀬戸信用金庫　主催

「失敗事例と貿易トラブル回避の方法」
於：愛知県瀬戸市大曽根　瀬戸信用金庫ビル
12/10
京都商工会議所主催
「パリ　京都伝統産品見本市出展準備」
於：京都商工会議所

7. 弓場　俊也（大阪　＃415）
11/24
ジェトロ神戸主催
「改定インコタームズ2010実務セミナー」
於：神戸商工貿易センタービル

8. 高橋　伸二（兵庫　＃420）
11/15
神戸税関主催
「貿易実務の概要と国際条約の現状について」
於：神戸税関

9. 柴田　篤（東京　＃508）
10/22
ゲイル㈱主催
「企業の海外戦略 - 中国リスクとアセアンシフト、韓国FTA戦略に学ぼう - 」
内容：最近顕在化しつつある中国リスクと、アセアンへのビジネスシフトについて講演。
進展著しい韓国のFTA戦略を絡めて紹介した。
於：東京都労働産業局秋葉原庁舎
11/5
株式会社バイナル主催
「安全保障貿易管理にまつわる法律と輸出者等遵守基準について」
内容：安全保障貿易管理にまつわる法律と輸出者等遵守基準について講演。ビジネスマンの経済犯罪を絡めて紹介した。
於：フォーシーズンホテル丸の内
11/10
株式会社ウチダソリューションズ京都主催
「中国リスクとアセアンシフト～日・韓・アセアンのFTA戦略の中でどう変わるか？～」
内容：最近顕在化しつつある中国リスクと、アセアンへのビジネスシフトについて講演。
於：新川　内田洋行ビル

10. 中西　尚孝（東京　＃560）
10/2
経済法令研究会㈱主催
阿波銀行東京地区　法人営業パワーアップセミナー
「外為営業の重要性とロールプレーイング」
於：東京海上日動ビル大会議室（東銀座）
10/16
経済法令研究会㈱主催
広島銀行　融資力強化セミナー「外為営業の推進」
「外為営業の重要性とロールプレーイング」
於：広島銀行広島本店
10/19
ジェトロ東京本部主催
円高の進行に備えた為替変動リスク回避策
「先物為替予約を中心とした基礎的実務」
於：ジェトロ本部5階展示場ホール
10/28
ジェトロ大阪本部主催
円高の進行に備えた為替変動リスク回避策
「先物為替予約を中心とした基礎的実務」
於：ANAクラウンプラザホテル大阪「万葉の間」
11/13
経済法令研究会㈱主催
滋賀銀行法人営業セミナー：ゆとりプランセミナー
外為ビジネス実践講座
「外為営業の重要性とロールプレーイング」
於：しがぎん草津ビル
11/25
ジェトロ広島主催
円高の進行に備えた為替変動リスク回避策
「為替予約や通貨オプションを中心とした基礎的実務」
於：メルパルク広島6階「平成」
11/27
経済法令研究会㈱主催
阿波銀行徳島本店　法人営業パワーアップセミナー
「外為営業の重要性とロールプレーイング」
於：阿波銀行徳島本店
12/3
ジェトロ神戸主催
円高の進行に備えた為替変動リスク回避策
「為替予約や通貨オプションを中心とした基礎的実務」
於：ホテルモントレ神戸地下1階「随縁」
12/9
ジェトロ福岡主催
円高の進行に備えた為替変動リスク回避策
「先物為替予約を中心とした基礎的実務」
於：ホテルニューオータニ博多3階「ローズルーム」
12/10
ジェトロ長崎主催
円高の進行に備えた為替変動リスク回避策
「先物為替予約を中心とした基礎的実務」
於：長崎市立図書館　1階多目的ホール
12/17
ジェトロ愛知・岐阜・三重合同主催

為替変動リスクセミナー
「先物為替予約を中心とした基礎的実務」
於：ジェトロ名古屋IBSCホール

相談・アドバイス

1. 井上　隆彦（東京　＃012）
10/28,29
富山県、富山県農水産物等輸出促進協議会、ジェトロ事務所、北陸銀行他 主催、後援、協力
食品輸出相談会「中国バイヤーズ in 富山」
食品輸出相談会「中国バイヤーズ in 金沢」
於：富山第一ホテル宴会場、石川県立音楽堂交流ホール
概要：食品輸出商談会において地元フォワーダーとともに貿易相談ブース開設

2. 中川　善博（三重　＃067）
10/21　11/18　12/16
ジェトロ三重主催
巡回貿易相談
於：伊勢商工会議所　松阪市産業振興センター
10/8　11/25
ジェトロ中小企業庁、経済産業局等主催
中小企業向「ワンストップ・サービス・デイ」
海外展開対応者の相談
於：10/8　三重県合同ビル（津市）
11/25　四日市商工会議所（四日市市）
12/3
ジェトロ三重主催
巡回貿易相談
於：四日市商工会議所

3. 山岡　裕明（奈良　＃173）
11/18
大阪商工会議所主催
定期貿易相談
内容：
・販売店契約の下にベトナムで自社製品（人工関節、人工歯根）を販売する方法・留意事項
・同様、オーストラリアで輸入販売する場合の薬事法承認について（日本との違い、申請資料・データーの流用性、取得迄の時間）
於：大阪商工会議所国際部コーナー
（尚、本件、小林公典様（＃234）から現地情報を提供いただきました）

4. 平林　厚美（長野　＃312）
10/20　11/17　12/15
ジェトロ長野主催
貿易相談会
於：ジェトロ長野
10/27　12/8
ジェトロ諏訪主催
貿易相談会
於：ジェトロ諏訪

5. 小堀　景一郎（兵庫　＃313）
10/19
（公財）ひょうご産業活性化センター、
（公財）兵庫県国際交流協会主催
ジェトロ神戸共催
國際ビジネス相談会
内容：
・バナナ粉の生産、加工、販売について現地法人化（マレーシア・インドネシア等）に際して融資、人材ついて
・飲食店（カレー屋）をタイ・ベトナムに展開にあたり会社設立全般について
於：センタープラザ西館6階9号室
12/22
ジェトロ神戸主催
國際ビジネス相談会
内容：
・買い付けた商品が注文品と違っていたことに関するクレーム処理について
・キッズ用インテリア・リネンを中国から輸入に関して貿易手続きや契約方法など知りたい
於：神戸商工貿易センタービル4Ｆ

6. 門　元則（京都　＃321）
10/25　12/13
大阪商工会議所主催
定期貿易相談
内容：
・ベトナムにおける化粧品（ヘアケア商品）、レトルト（加工）食品の輸入手続き
・韓国より婦人服を、中国より看板部材（ステン加工品）を小口輸入中につき最適運送方法を。
・フィリピン・セブ島に100％子会社を設立
於、大阪商工会議所貿易相談コーナー
11/19　12/19
CLOVER TRADING CO.,LTD主催
貿易相談
・ベトナム向け輸出契約書、書式の戦い
・CITES附 属 書「（蘇鉄）、輸出許可書
・日本式庭園を現地に設計・施工
於：大阪府高槻市

7. 中村　陽一（兵庫　＃364）

10/21
ジェトロ神戸貿易情報センター主催
定期貿易相談
於：兵庫県尼崎中小企業センター内505号会議室

8. **弓場　俊也（大阪　＃415）**
10/22
ジェトロ神戸主催
国際ビジネス相談会
内容：
・建設機械の海外代理店提携について
・化粧品の中国輸出について
・分析計測機の東南アジア輸出
於：尼崎市中小企業センター
11/25
ジェトロ神戸主催
國際ビジネス相談会
内容：
・輸出為替リスクの回避方法
・ソーラーポンプシステムの海外市場調査
於：神戸商工貿易センタービル

9. **芳賀　淳（兵庫　＃562）**
10/4,7,18　11/5,8,24　12/6,9,13,17,22
（独）中小企業基盤整備機構主催
国際化支援アドバイス
内容：
・ベトナムでの工場設立について、
・ベトナムでの販路構築、他
於：（独）中小企業基盤整備機構・近畿支部（大阪市中央区天満橋OMMビル11階）
10/15　11/8　12/10
大阪産業創造館　あきない・えーど　主催
海外取引相談
内容：輸入ビジネスにおけるコスト計算について
於：大阪産業創造館2階（大阪市中央区）

その他の活動

1. **寺尾　邦彦（東京　＃270）**
2010/12月
「ジェトロ　貿易ハンドブック2011」
の監修・更新業務
（第1章「貿易実務の基礎知識」Ⅰ～Ⅸ、ほか）

2. **小川　陽子（大阪　＃616）**
2010/9月～12月
㈶大阪国際経済振興センター主催
海外展開支援プロジェクトにて
中小企業の海外進出支援を実施
於：㈶大阪国際経済振興センター

理事会議事録（抄録）

第93回AIBA理事会

日　時：2010年11月20日（土）14：00-16：30
場　所：東京都千代田区外神田1-1-5　昌平橋ビル2階会議室
出席者：理事10 名および監事1名（敬称略）
理　事：網谷、渡辺、釜堀、寺尾、井上（隆）、奥村、大河内、岩田、高梨、熊本、
監　事：伊東

議題
（今回は報告事項のみ）

1. **理事長の開会挨拶**。ITICへ来年度も助成金の継続申請を予定しているとの報告があった。
事務局：AIBAだより58号（10月）の発行。
奥村理事：上半期の決算について、概ね、順調に推移しているとの報告があった。
井上理事：2010年度のAIBA認定試験の受験申込状況および実力養成講座の受講者数について、報告があった。
2. **事業本部近況報告**（各理事より進捗状況を報告）
高梨理事：ジェトロ「国別Q＆A」の進行状況。
寺尾理事：オンライン講座「貿易実務マガジン」用原稿執筆業務。リバティ社の派遣登録社員対象の貿易実務研修への講師派遣。「とやま中小企業応援ネットワーク」主催セミナー・貿易相談業務への講師派遣（北陸銀行）。
渡辺副理事長：「輸出有望案件発掘支援事業」の公募について。CBC社への講師派遣。
釜堀専務理事：「ジェトロ貿易ハンドブック2011」版の改定業務。
網谷理事長：グローカルデビュープロジェクト。
茨城県の食品輸出アドバイザー募集。
大河内理事：外部研修講師派遣（ジェトロ人材開発支援課、ジェトロメンバーズ講演会、日本関税協会、阪和興業、ブレーン社、コラボレート研究所他）
熊本理事：新規案件（エジプトEPPC案件。
Ｎ社およびＰ社向け進行中案件）
岩田理事：首都圏勉強会の9月及び10月の実施状況および1月および2月の予定。
3. **第3回AIBA認定試験の実施**
渡辺副理事長：試験の実施予定（11月21日）について、概況を説明した。

第94回AIBA定例理事会

日　時：2010年12月18日（土）15：00-17：00
場　所：東京都港区海岸1-7-8　東京都産業貿易会館

地下1階レストラン「ピガール」
出席者：全理事15名および監事2名（敬称略）
理　事：網谷、渡辺、釜堀、寺尾、井上（隆）、奥村、大河内、岩田。高梨、熊本、畠山、常川、門、井上（照）、大重
監　事：伊東、柴田

議題

1. **支部近況報告**
   各支部長より、近況報告があった。
   特に、認定試験のセミナーおよび一次試験の受験者の確保について、意見が交わされた。
2. **事務局：AIBAだより59号（1月）発行予定。**
   貿易アドバイザー協会会員証発行状況。
   奥村理事：AIBA9月末（上半期）決算報告。
3. **AIBA試験運営委員会**
   渡辺副理事長：認定第一次試験実施報告。
   （会場別受験申込者数、都道府県別合格者数）
   試験関係総括は2次試験終了後に行いたい。
   （過去問題の公開について、質疑応答があった）
4. **試験事務局**
   井上（隆）理事：受験対策ゼミ収支概算および会場別受講者報告。
5. **事業報告**（11月の理事会で報告された案件について、その後の進捗状況を中心に各理事より報告された）

寺尾理事：ジェトロ受注案件、最近の入札・公募案件、研修事業などについて、全般的に報告。その他、市場開拓コーディネータ（公募）、FOODEX JAPAN2011の食品コンサルタント（公募）について、報告。
高梨理事：ジェトロ「国別Q&A」更新業務一式は11月末、400件を仮納品済。
大河内理事：ジェトロ本部主催「円高対策セミナー」中西会員が東京、大阪、他7か所で講演しているが、好評であると報告があった。また、ジェトロ関連や日本関税協会、コラボレート研究所の研修事業も順調に推移している外、交渉中の案件、数件についても報告があった。
熊本理事：エジプトEPPC案件は9月に成約した。
進行中の案件、S金庫、M社、N社や新規案件についても報告された。
岩田理事：内部研修。最近の実績11月及び今後の予定1月、2月について、報告。
（理事会の後、17：30より同レストランにて、AIBA首都圏忘年会が開催されました）

ジェトロより出版

「輸出のすすめ方」
平成18年10月初版発行

「輸入のすすめ方」
平成21年4月第5版発行

著者：永野 靖夫
http://www.bouekitenbou.com

〈編集後記〉
★初校用ゲラ刷りが夜の11時過ぎに出来上がってきました。何とかまとまった形が見えてほっとしました。
年末年始の休日が多いこの時期、逆に私的には忙しいせいかギリギリ締切日前後に入稿が集中する。
編集担当者の役目は、会員・投稿者が苦吟して作り上げた貴重な原稿を洩れなく、誤りなく、読みやすく誌面に組み上げることと理解していますが、これが一時に集中すると気骨が折れます。
★編集者として関与してから今号で18号目、5年目に入りました。毎号同じような単純な忙しさの中、編集方法と誌面構成などには進歩発展がないことが我乍ら残念です。
投稿原稿は質・量とも良くなったと言っていただきますが、編集者の方も少し工夫し、進歩しなければならないと思っています。
例えば、コラムニストを指名し毎号コラム欄に書いていただく…とか支部、グループごとに毎号持ち回りの執筆、執筆者の推薦を募るとか考えていますが、会員・読者からのご意見、アドバイスを戴きたく思います。
★経済大国への道を歩む中国、異文化のイスラム圏の人々と国家、この二つは時折予測しがたい行動で、私に不可解な印象を与える存在です。
先日、本屋をぶらついていたときに何気なく購入した二冊の新書版「イスラムの怒り」内藤正則著と「超大国中国の本質」中嶋峯雄他著はビンゴでした。二つとも国際関係論の立場から経済・政治のバックグランドを示してくれています。新聞とNHKだけ見ていたのでは判らないところも明確に説いてくれています。
自らの勉強不足を痛感します。